

第3学年 道徳科学習指導案

〇〇年〇〇月〇〇日 (〇) 第〇校時
授業者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 主題名 正しいことは、自信をもって
2 ねらい いけないことだと知りつつも、誘いを断れなかった主人公がどうすればよかったのか考える学習を通して、正しいことを、自信をもってする大切さを理解し、正しいと思うことを進んで行う態度を育てる。

教材名 「ハートがたのガム」
(出典：「彩の国のどうとく」(中学年)『みんななかよし』県教委)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

小学校3学年及び4学年の指導の観点は、「正しいと判断したことは、自信をもって行うこと」である。

中学年は、物事の善悪についての確に判断し、自ら正しいと信じるころに従って主体的に行動すること、自由を大切にするとともに、それに伴う自律性や責任を自覚することが大切であると考ええる。この時期の児童は、正しいことや正しくないことについての判断力が高まってくる。また、友だちの存在が大きくなり、友だちの判断に大きな影響を受ける時期でもある。自分では正しくないと思いつつも、友だちに引きずられて正しくない行為をしてしまうことがある。仲のよい友だちに誘われてしまうと、余計に断りづらくなり、正しくない行為をしてしまうことがある。

指導にあたっては、正しいことを行えないときの後ろめたさや、自ら信じるころに従って正しいことを行ったときの充実した気持ちを考えさせ、正しいと判断したことは自信をもって行い、正しくないとは判断したことは行わないようにする態度を育てることが大切となる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、学校のルールや学年のルールをよく守り、話を静かに聞くことができる児童が多い。友だち関係も良好で、男女分け隔てなく仲良く過ごすことができている。

これまでの道徳の授業では、「あと、ひと言」という教材で、「自分だけが正しい行動をとるだけでなく、友だちにも正しいことは思い切って『正しい』と伝えることが大切である。」ということを学んでいる。休み時間には、レクリエーション係を中心にクラス全員で遊ぶこともあるが、遊び方のルールを守って仲良く遊ぶことができている児童が多い一方で、飽きてしまうと勝手に教室に戻ってきてしまったり、ルールを変えてしまったりする児童もいる。正しくないことをしている友だちに対して、正しいことをはっきり伝えられる児童もいるが、多くはない。友だち関係を気にするあまり、はっきり言えずにつられてしまうことが多くあるように感じる。また、仲の良い友だち同士だと、自分勝手な行動につられてしまうこともある。また、教師が見ていないところや、学校の外に出ると、友だちがたくさんいることで気持ちが大きくなり、正しくない行為をしてしまう児童もいる。そこで、もう一度、正しいことをするには、何が大切なのかを考え、正しいことを自信をもって行える態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公「かずみ」が親友の「あき」から学校の休み時間にハートの形をしたガムを手渡され、悪いことだと分かっているにもかかわらず、自分の判断がどうだったのか考える話である。本学級の児童の実態を受け、まず、主人公「かずみ」の心の内を考えた後、それぞれの場面で、どのように判断すればよかったのかを話し合うことにする。

①親友「あき」からハート形のガムを差し出されたとき、「かずみ」は、どのようなことを考えたか。

ここでは、悪いこととは分かっているも、友だちのことを考えると断れない心の弱さを考えさせる。

②ハート形のガムをもったまま教室にいた「かずみ」は、どのようなことを考えたか。

ここでは、正しいことを行えなかった後ろめたい気持ちを考えさせる。

③「かずみ」は、何がいけなかったのでしょうか。

ここでは、正しいことをするために何が間違っていて、何が大切なのか考えさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

4 学校研究課題との関わり

研究主題

豊かな心をもち、よりよい生き方を求める児童の育成
～「考え、議論する道徳」の授業を通して～

○目指す児童像について

- ①人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を、自分のこととして考えることのできる子
- ②他者との交流を通して、物事を多面的・多角的に捉えることのできる子
- ③自分の特徴を知り、伸ばしたい自己を見つけ、それを実現させていこうとする思いのある子

【目指す子どもの姿】

<p>〈低学年〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①道徳的価値は、大切なものであると理解できる。 ②自分の考えをもちつつ、友だちの話を聞くことができる。 ③自分ができていることや、できていないことを振り返ることができる。 	<p>〈中学年〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①道徳的価値に対する考え方は、様々であることを理解できる。 ②友だちの考えと自分の考えを比べて聞くことができる。 ③自分の体験や経験を振り返り、よりよい自分になろうという思いをもつことができる。 	<p>〈高学年〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ①道徳的価値は、大切なものであるが、実現することは難しい時もあることを理解できる。 ②多くの考えを聞き、その考えに対する自分の納得できる答えを見つけることができる。 ③自己の生き方についての考えを深め、道徳的価値を実現させようとする事ができる。
--	--	---

○仮説とそれに対する手立て

仮説1 児童の「主体的な学び」を促す授業を行えば、道徳的価値を自分のこととして考えられるであろう。

<手立て>

(1) 道徳的価値を自分のこととして捉えさせる授業展開の工夫

- ・日常生活の善悪を判断する場面を思い起こさせることで、問題意識を高め、善悪について考えようとする意欲をもたせる。

(2) 主体的に考えさせるための課題提示の工夫

- ・児童が道徳的価値を常に意識しながら授業を受けられるよう、課題を明確にする。

仮説2 他者との交流方法を工夫すれば、議論が深まり物事を多面的・多角的に捉えることができるであろう。

<手立て>

議論を深め、物事を多面的・多角的に捉えるための交流方法の工夫

- ・何がいけなかったのかを話し合わせ、自己の生き方をより深く考えさせる。

仮説3 指導と評価の一体化を図り、計画的に評価を積み重ねていけば、児童は自己理解を深め、道徳的価値を実践しようとする意欲が高まるであろう。

<手立て>

(1) 児童が自己の良さや課題を発見し、実践する意欲を引き出すワークシートの工夫

- ・自己の生き方について振り返りやすいよう、板書で児童の考えを可視化し、ワークシートにまとめる。

(2) 指導と評価の一体化を図るための課題提示の工夫

- ・指導観に基づき課題を定め、児童の変容から授業の在り方を振り返る。

5 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 善悪を自分なりに考え、本時のねらいにつなげる。 ・学校で友だちからお土産をもらう。	・友だちからお土産をもらうのはいけないことだと思う。学校に関係のないものだから。 ・物によっては、いいと思う。	・身近に起こりそうな出来事について尋ね、ねらいとする道徳的価値について問題意識が高められるようにする。

		<仮説1 手立て(1)>	
		正しいことをするには、どんなことを大切にしたらよいのだろう	
		<仮説1 手立て(2)> <仮説3 手立て(2)>	
展 開	<p>2 教材の読み聞かせを聞き、主人公「かずみ」の心の内を中心に話し合う。</p> <p>(1)親友「あき」からハート形のガムを差し出されとき、「かずみ」は、どのようなことを考えたでしょう。</p> <p>(2)ハート形のガムを持ったまま教室にいた「かずみ」は、どのようなことを考えたでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に持ってきてはいけないよ。 ・先生に怒られてしまうよ。 ・ほしいな。でもどうしよう。 ・せっかくあきちゃんが持ってきてくれたんだからもらわなきゃ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせの前に登場人物やその状況について知り、より深く主人公の気持ちになって考えられるようにする。 ・悪いことだとは分かっているけど、親友のことを考えると断れない主人公の心の弱さを考えさせる。
	<p>(3)かずみは、お母さんに「どうすればよかったのかな?」と言われました。かずみは、何がいけなかったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あきちゃんにガムを渡された時にはっきりと断らなかったこと。 ・あきちゃんにガムを渡された時に学校にガムを持ってきてはいけないことを言えなかったこと。 ・教室にいる時に、先生に正直に言えなかったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合い、多様な考えを引きだす。正しいことをするタイミングや方法について話し合うことで、正しいことをするときに必要なことは何か考えさせる。 <p style="text-align: right;"><仮説2 手立て> ☆何がいけなかったのか、自分の考えを表出し話し合っている。</p>
	<p>3 今までの自分自身を振り返り、学んだことがどのように生かすことができるのかを考える。</p> <p>・正しいことをするには、何が大切だと思いましたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちにつられて正しいことができない時があったけれど、これからは、つられないようにしたい。 ・どんなに仲のよい友だちでも、正しいことができていなかったら、注意してあげたい。 <p>・正しいか正しくないかを決めるのは友だちではなく、自分だから、これからも正しいと思うことをしていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動を取り入れ、自分自身を見つめさせることによって、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。 <p style="text-align: right;"><仮説3 手立て(1)> ☆これまでの自分を振り返りながら正しいことをする上で大切なことについて考えている。</p>
終 末	<p>4 「わたしたちの道徳 小学校3・4年」P.30～31を読んで、道徳的価値に対する思いや考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何が正しいのかは、自分自身で決めないといけない。 ・どうすればいいか、わからなくなった時は、誰かに相談することも大切だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい判断を自分自身でしていきたいという意欲がもてるように余韻をもって終わりにする。

6 他の教育活動との関連

日々の生活や学習活動の中で、善悪の判断が必要とされる場面で適切な判断ができた場面を見付け、称賛する。

7 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・主人公に自分を投影しながら考えて話し合う中で、自分の考えを発表したり、友だちの考えを聞いたりしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・正しいと思うことを自信をもって行うことの大切さを、自分との関わりで考えている。

8 板書計画



9 ワークシート

	年 組 番 名
	◇今日の道徳で、考えること
	正しいことをするには、どんなことを大切にしたらよいのだろう
	(ハートがたのガム)
	
	◇今日の課題について、これまでの自分を振り返りましょう。